

## 2023 年度 日本インターンシップ学会東日本支部 第 3 回研究会報告

報告者 松坂暢浩（東日本支部支部長）

第 3 回支部研究は、2024 年 6 月 22 日（土）14:30 より愛知東邦大学を対面とオンラインのハイブリット形式で開催いたしました。当日は、全国から 22 名の大学教職員、民間企業など多様な皆様に参加いただきました。

2023 年度支部研究会のテーマである「インターンシップ研究における共創」を踏まえ、東海地区における共創の具体的な実践事例の話題提供をいただきました。まず、NPO 法人 G-net の棚瀬規子会員（法人会員）から「地域の人事部」活動（豊田市での地域企業複数者による 5 日間のインターンシップ）や「シゴトリップ」の取組み、飛騨市（行政）での長期実践型インターンシップの具体的な取組内容について説明いただきました。次に、名古屋産業大学の今永典秀会員（東日本副支部長）より、わくわくスイッチの三重県での就域活動について紹介いただきました。その上で、多様なアクターが共創することで、学生の教育効果と、関係するアクターのメリットが生み出されるポイントについて参加者と議論しました。質疑応答では、参加者からは「活動に参加する学生のモチベーションを高める上でどのように取組むべきか」や「地域内で連携するためにどのような体制を作ればよいか」など、地域で当事者が抱える課題についての質問がありました。

自由研究発表では、岐阜大の柴田仁夫会員より「課題解決型実習から課題設定型実習へー往還型学習によるキャリアアンカーの確立」について発表いただきました。講義と実習を組み合わせ、理論と実践を定着させる往還型教育の実践内容（「ビジネス実習」の内容）と参加学生の内的キャリア（キャリアアンカー）の変化について調査結果を共有いただきました。

研究会後の参加者アンケートには、10 名の参加者から回答があり、研究会の満足度は「大変参考になった」「参考になった」あわせて 100%でした。感想としては、「地域の取組みをお聞きして、視野が広がった」「学生のモチベーションを高めることの難しさやそれについての解決方法を登壇した方や参加者と共有できたことがよかったなどのコメントがありました。

最後に、第 25 大会実行委員会の手嶋慎介委員長と吉本圭一会長より、研究会の総括と第 25 回大会の案内をいただきました。今回の研究会は、本大会のテーマにつながる内容であったと感じました。ぜひ、東日本支部としても第 25 回大会の成功に向けて、支部一丸となってサポートできればと考えております。今回の研究会会場でもありました愛知東邦大学で、会員の皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

